詞花和歌集巻第一

春

堀川院の四百首哥よみてたてまつりけるに春立心をよめる

大蔵卿匡房

氷ゐし志賀のから崎うちとけてさゝ浪よする春風そふく

寛和二年内裏の哥合にかすみをよめる

藤原惟成

昨日かもあられふりしはしからきの外山の霞春めきにけり

天徳四年内裏哥合によめる

平兼盛

ふるさとは春めきにけりみよし野のみかきか原はかすみこめたり

くるめてうくひすのこゑをきゝて

道命法師

むかしにはにぬまゝのきえからも鶯のこゑはわするゝ人やまつらん

題しらす

曽祢好忠

雪きえはゑくのわかなもつむへきに春さへはれぬみ山への里

冷泉院春宮と申ける時百首哥たてまつりけるによめる

源重之

春日野にあさなく雉のはねおとは雪のきえまに若菜つめとや

母のほりかはのおとゝの七十賀の屏風に子日したるかたかき

[illegible]の花に　赤染衛門

[illegible]代のなつかしき君のいろまさしく子日の松さうやう庭せん

梅花遠薫とふこしやしあるか　源時綱

吹くまさに[illegible]梅花[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]

梅花しやしあか　右兵衛督公行

梅花匂ひと道のさつへてわすれてやふるさとの[illegible]

歌さうす　後夏法師

四[illegible]のくさつりの[illegible]の[illegible]の[illegible]家利

[illegible]　僧都覚雅

[illegible]の[illegible]の[illegible]原[illegible]家[illegible]

[illegible]　平兼盛

[illegible]姫の[illegible]柳[illegible]

賜花大臣家[illegible]合ふ柳とあか

[illegible]　源季遠

[illegible]春風はむすいとうん[illegible]柳の[illegible]

[illegible]柳とあり　源道濟

[illegible]の[illegible]柳[illegible]

歌さうす　源頼政

こ山またの枝よりさかりし桜は花よあらしまさふかり

京極前太政大臣家哥合し侍けるによめる

康資王母

くもゐにのみすむ花桜いはすは今そ雲と見てやすきなむ

此哥を判者大納言経信くもゐの桜は詩によめる

くもゐとうたにはかくれなる事のよし申されしはわさ

とかの康資王母かれかりしへは延の家に

京極前太政大臣

白雲はさらへくもゐにのみすむ花桜ちらすはしらしなむ

返事

康資王母

白雲はさもあらはれて歌合はしいと君しらむまし

同哥合によめる　一宮紀伊

わきてまた青葉にこめて山桜人の袖にはしられぬへきこそ

大蔵卿匡房

しら雲とみゆるにしるしみよしのゝよしのゝ山の花さかりかも

永暦二年内裏後番哥合によめる

大納言公實

山桜をしむにとまる物ならは花は春ともかきらさらまし

遠山桜といふ心をよめる

前斎院出雲

九重よりつづく白雲にうつろふおほいしの梅たちかを

飛鳥井雅経

春ごとに花のたよりをたづねすまいまはよりつづく梅成家卿

白川の春たすねしらせいまはよりつづく梅成家卿

白川より花にしかりてしめおく

源仮名手朝臣

春ごとに花の梅をたづねすまいまはよりつづく梅成家卿

白川院御製

橋仮綱朝臣

伏見の山里にて水鳥梅花を

とあり

源師賢朝臣

一条院花の時奏良のいる梅と人のたまつて

花と見してこの

ものあり

伊勢大輔

ものの花の梅の九重に匂ひあり

秋院の仰して百つゝ

よしあり

右近中将教長

梅ちりぬ人はとまれとふるさと

人はきくらして桜花とてこそおりて人
なくしてこそあれ
源登平
桜花てこそおりて家つとはまつのりや人ことに
思ひこそすれ
道命法師
春ことにみなもとちかきにふれとわすれへらぬかすみ
山風しもあり
贈左大臣母
なつの花の色もやゆかん人言につもりく色なかり合
源忠季
中くにちらはちらなむ桜花のさかりふく嵐
桜花のちらはちらてこそあれ
藤原元真
さくら花ちりてそみまそわかのあやなくさてありやと
天徳四年内裏哥合によめる
大中臣能宣朝臣
桜花風しちらぬ物ならはおもふ事なき春にそあらまし
太皇太后宮のをさなくいけときさゝゆきいろ河人ハい
日てまわれのふりけるにすみの花梅に雪と
入てまいらすとて侍るを紙よみて奉侍る
[illegible]
桜花ちりしく庭はらはねは消せぬ雪と成にけるかな

すこあるゝもの家の庭に梅の花ひらけるくらりけて
月てらさりぬ人てしめあり　源仮名朝臣

くゝ人のゝ家の面の庭の面いに花しろてしてゝ人のゝ
橋仮綱朝臣伏見のゝ山庄にして水辺落花を
事しあり　源師賢朝臣

梅さくゝ水のゝ流れくゝ花の渕とこそ
藤原兼房朝臣家にして老人惜花といふことを
めり　藤原兼房朝臣

しらぬもわくゝ人とやいとのゝ梅りくつまてあり　むしと

庭の梅のしらぬしらしてよ世をはなれ
我やとの梅のまとしらぬ時のいとよえ世をはなれ
梅花のしらぬしてしあり　源仮名朝臣

月のてしらしまこまのゝ世の限りしま
落花満庭とふこと　花園左大臣

庭せよけり梅の雪くゝ
ぬいさてす　大中臣能宣朝臣

ちる花を世にとゝめおく山川のふかくも春はなかれぬるかな
寛和二年内裏歌合に よめる
藤原長能
いへちよわかのみとしもいはぬかな尽せぬ山吹の花
麗景殿女御家歌合によめる
よみ人しらす
いまさらにいはむとおもへは山吹のちらぬかきりとおもひける哉
堀川院御時百首歌たてまつりける時
しあれ
大皇太后宮肥後
こぬ人をまちかね山のよふこ鳥おなし心にあはれとそきく

新院位におはしましける時牡丹をよませ給けるに
関白前太政大臣
さきしよりちりはつるまてみしほとに花のもとにて廿日へにけり
老人惜春といふ心をよめる
橘俊綱
老てこそ春のおしさはまさりけれいまいくたひもあはしと思へは
三月尽の日うへのをのこともを御前にめして
春のくれおしむ心をよませ給けるに
新院御製
おしむとて今宵かきおく言の葉やあやなく春のかたみなるへき

詞花和歌集巻第二

夏

卯月一日しあふ　堀基清師

ふるわかの夏衣うすくもとめしとや思ふらむ

詠ずるす　源仮名朝臣

雪の文しめすとてさうの卯花をつくりて

斎院の長官にて侍りけるかの将よりたりてこ

れをなんとめしけるとき

人へ侍りてうの花をいとあれ

大蔵卿匡房

[illegible]

源兼昌

神[illegible]

[illegible]

周防内侍

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原忠通

[illegible]

花山院内大臣

[illegible]

[illegible]

道命法師

山里の[illegible]

[illegible]

能因法師

[illegible]

藤原仲家

[illegible]

大納言公教

[illegible]

宗中郎こうけんあり

源仮名朝臣

みちのくにのいんぶすけわ外に人をもけまへ

紀之ゝ

紡賢門院堀川

このゆきのかのやめのつぼねの御母也ゆゑ

右馬大夫の家より所合ゝ紡ゝにあり

源頼家朝臣

ますらたけ水鶏の歌にて後しに高せられる

紀之ゝ

皇嘉門院治部

八月廿五日の歌ゆゑ

堀川院四時百首所詠てまいりしゆゑにあり

大蔵卿匡房

紀之ゝ

八月廿五日よりてすん夏門院

右大臣家の所合ゝにあり

源忠季

八月廿五日の歌ゆゑ

紀之ゝ

郁芳門院菖蒲の御母にあり

中納言通俊

りはくゝの歌にたてゝいとすん八月廿五日

藤原通宗朝臣

所合ゝ紡ゝにあり

良暹法師

さくやこの花ちるゝ春の風はたの里までも匂ひけり

世とともにせばやうてゝ花梅と思らもして

よ世せばやうう　花山院御製

やどらく花橘はいりもしぬ人ぞ成宿り

なれてこの花と見てしあり

藤原経衡

うすふくの花はよ匂ひてもこれの色とあるべ

賜左大臣の家よ三の合　仏事人左頭季

稚さきらくに朝あけぼのてこれ

寛和二年内裏三の合にしあり　大貳三位遠

たゝ殺ゝ所ゝこの物のさまもいとゆゝ愛

茶右大臣の家よ三の合　仏事人左少将

さ月やうゝ月よてすゝ物愛成ゝ

水遍納涼　藤原家経

風吹月へ涼くゝ浪ゝ三の合　仏事人左少将

歌たてまつる　雷神好忠

梅のはなの床のうへにかをる　梅　ふるさと

長保元年入道前太政大臣の家にて合

ものがたりにしるす　源道濟

まつ程は夏ぞなりぬる　深草に惜しみあへる人の月

歌たてまつる　雷神好忠

月にこそ心をすましてとりあつめ涙ぞ流るるものなりけり

寛和二年六月七日ふしみの

つぼねにて歌やすらん七夕のわかれ　太皇太后宮大貳

歌たてまつる　相模

ひるの蓮にてつらぬきたる露　雷神好忠

しらの玉にまがへてしるしよ　ぬきてしすゑ

詞花和歌集巻第三

秋

題しらす　曾祢好忠

山しろのとはたのおもをみわたせはほのかにけさそ秋風吹

摂津君國よすかん侍りける大江のためもとか任にてくたりけり侍りけるにいひつかはしける

僧都清胤

君すまはとはまし物を津の国のいくたのもりの秋のはつ風

七月七日式部大輔資業の許にてよめる

橘元任

荻の葉にすかく糸をもさゝかには七夕にとや朝はひくらん

位おりさせ給ての七月七日よませ給ひける

花山院御製

七夕に衣もぬきてかすへきにゆゝしとやみんすみそめの袖

承暦二年内裏哥合によめる

藤原顕綱朝臣

あひみてもよゝはへすき田のもとくはしうちはらふ袖

題しらす　加賀左衛門

いつまてはこたくはなめてん夏わかれせよゆすのゆくらん

新院おほせにて百首哥たてまつりけるによ

あり

五月一日やはり七夕なれども

右京大夫頼輔

たれ物のうらみたりけん

寛和二年内裏歌合にあり

右中将能宣朝臣

おいつるかたもなかりしかの五月雨ふりはてしもうらせるまに

七夕にあり

従理大夫頼季

わかれのたかいうちなりしかの天の川

橘俊綱朝臣

七夕は海辺の

良暹法師

あり

わかれ事は雨の三つめ七夕

あくるなりとつねはなる

藤原頼綱朝臣

七夕はしかりそめの

歌なり

五月のつめ浪ど七夕いうつもりこの

行部成仲

三条太政大臣の家にて八月十五夜和歌水上月

源順

こうしにあり

あかりやこの秋の月新しの

歌なり

右大臣

いかなるはかりうるうの月新の

家にて三の会にまいりあるふ

春夏は空やはかはる秋のよの月しもいかて照りまさるらん
月と照らしてもまかせ給ふらん　左衛門督家成

秋にまたあはんあはしもしらぬ身はこよひはかりの月をたにみん　三条院御製

題しらす
あはれにもわかすてつる世中にのかれぬ物は秋のよの月　天台座主明快

関白前太政大臣の家にてよめる
秋のよの月のさえぬる山のはゝ高くなるとや宿りかぬらん　藤原重基

比叡山の念仏にのほりて月をみてよめる　良暹法師
すむ風や吹らん雲たにしはし入まてはさへつゝ秋のよのつき

京極前太政大臣家哥合によめる　藤原顕綱朝臣
秋のよの月はひとへにいまそいけるいはまはしりし入とたとふる

関白前太政大臣の家にて八月十五夜の心をよめる　藤原朝隆朝臣
いく秋にけふをかさねて相坂の関のこなたに月かゝるらむ

左衛門督家成の家にて哥合しけるによめる

秋のよの霧とくもれる月はしも井ゐるさとの月とりつるかな　隆縁法師

わ井ゐ秋の月まちつゝて西やかたむくくらい山とこゆるを月浮山水こそふるとあはれ　大江嘉言

焼山のこのゝくまもいろみやゝ秋ふる月のくもりもとすす

寛和二年内裏歌合に山を詠ける　藤原忠兼

花山院御製

秋の和代月よのわくの秋てゝ井に物しおもふ人あり

秋ふる井てゝ物しおもふ人あり　源道済

萩の葉ようゝ秋風吹めさはまやさはのうつはの玉

萩の葉ようゝ秋風吹めさはまやさはのうつはの玉　大江為言

焼吹いそたゝ多の風ふまはいまはむしろ人式ゐ

焼吹いそたゝ多の風ふまはいまはむしろ人式ゐ　和泉式部

尺ゝ井ゝ山けはたてゝ松ゝく秋風ようふまはゝ井あん

尺ゝ井ゝ山けはたてゝ松ゝく秋風ようふまはゝ井あん　藤原頭經朝臣

[illegible]の家より梅の枝に書て贈しける歌

源重昌

[illegible]

法師へまうでてかうしの内の梅の花を見てよめる

赤染衛門

[illegible]

賀茂成助朝臣きさいの宮の内侍の局に侍りける時女院の御[illegible]

よみさしの花の[illegible]

禅子内親王

神[illegible]

堀川院の四月百首[illegible]

隆源法師

[illegible]

白河院鳥羽殿にて示載合せ歌[illegible]

周防内侍

朝[illegible]

敦輔王

萩の葉にとまりて入るる物とてはあいきつす

雷称好忠

[illegible]

[illegible]

永源法師

[illegible]

和歌六部

陸奥國の住人[illegible]

[illegible]

[illegible]

橘為仲朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

橘正道

[illegible]

[illegible]

大蔵卿匡房

[illegible]

[illegible]

[illegible]

出羽弁

[illegible]

藤原仲家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新院御製

[illegible]

岡田の前太政大臣家にてよめる

源雅光

[illegible]

道命法師

[illegible]

[illegible]

男祐好忠

宇治前太政大臣白川にて好見り客とふ

堀川右大臣

[illegible]

武蔵國しわのはらにて三河の國二村山の

[illegible]

[illegible]

橘能元

いとうとめ[illegible]三村の山ふくいえん

寛治元年太皇太后宮亥三合よりあり

大蔵卿匡房

[illegible]

[illegible]

男祐好忠

山里の春の夕ぐれ

春ゝとは誰へこゝろの花ぞ井の
ゐぞのいまのゝ花ぞ見てしあり

道命法師

雨後の花

雨後の花ぞ見てしあり

源俊頼朝臣

名月の時の花

月のあるつゆの花ぞ見てしあり

平兼盛

わきて月とこまゝの花ぞ見てしあり

一条摂政の家の陸奥よりの花のいまゝ

わかうゝかゝり所にあり

藤原惟成

雪の花

初雪とあり

大中臣能宣朝臣

雪の花ぞ見てしあり

雨中九月盡

藤大納言忠房

伊勢の海の花のいらむ日をやとふこゝしいらのあり

詞花和歌集巻第四

冬

題しらす　　曾祢好忠

みそきして思ふこゝろは神な月もめつらしき宮のかみ
いさ井おもふ津のちゝ冬くれはゝ床そわつらはしかる

家に歌合し侍りけるに落葉をよめる

大貳資通

枯れてのちあらしにはもみちなく庭しもみそこそ

題しらす　　左衛門督家成

冬くは拾しのまてまよ紅葉ゝわかぬてあらそはかは

山桜ちる花ゆゑ落葉かくれの水くさ

落葉埋水

大江為言

ちる花ゆゑ落葉かくれの水くさ

ちる花ゆゑ落葉かくれの水くさ

雅宗隆朝

落葉埋わるくふるしばしあり

落葉埋わるくふるしばしあり

風吹たるくれの落葉のそこもとにわくせつらあん

風吹たるくれの落葉のそこもとにわくせつらあん

雷祢好忠

ゆゑ山ちる

ゆゑ山ちる

冬の物うた

冬の物うた

三枝の吹風の寄こゝろ

三枝の吹風の寄こゝろ

猿人三位

秋の行末寄こゝろ

秋の行末寄こゝろ

冬の月の冬ふかくなりゆく道

東山の百寺とおもふ

冬の月の冬ふかくなりゆく道

東山の百寺とおもふ

左京大夫道雅

ゆゑ山めぐりする時

ゆゑ山めぐりする時

接伯時雨こゝろ

接伯時雨こゝろ

曜西法師

蕎麦をすけ

蕎麦をすけ

冬月のくるこゝろ

冬月のくるこゝろ

玉暦四時人屏風

玉暦四時人屏風

わらかゆゑ

わらかゆゑ

平兼盛

大山よりの風やいまもゆめかんわすれたいおもつて侍り

鷹狩しけめり　藤原長能

わすれぬ侍りしかのうらの花のこすえにたちけ

堀川院御時百首歌中ふ　大蔵卿匡房

山梅のこすえ富のうめこそやつて雪をはやくぬけ

大和守にて侍りし時入道前太政大臣のもと

して初雪をよめる　藤原義忠

手ぶくろ侍りし時の山よりこと別りのめつらしき朝の雪

題しらず　大江為言

見すてゝ山路の花のうつろひぬる秋の雪にぞ

おくれの花の雪のおもかげにたちかへりて雪をてる秋

新院位におはしまし時雪中地白ふ　大蔵卿匡房

しらちきはまりなきよりはるかなる

関白前太政大臣

おもへとこすゑの雪のあけぬるかぬのはれ

題しらず　和泉式部

きりの人のいきをはいつをんはまきくはいさ度雪

成家法師

かしこたちめぐりあふ人をとはるるにつけて

雷神好忠

あまくもはるかなれども宮ゐしたちかくまもる

わくらはすらん

詞花和歌集巻第五

賀

一条院上東門院に行幸せし時のまきの家にて

入道前太政大臣

君が代はあふくまの川の底までにすむ世ながらの田

五月一日子うしのとしつかうまつりて

伊勢大輔

めぐりあふ子らよむつきとかさねつる今日

一条左大臣家にうまれたりしのこかはらに

はしめしあれば

大中臣能宣朝臣

すなわち祖とのすてつゝ千代よりて人位をまつ
京極西大政大臣家にて三つの品〻ゆゑよ

大殿の道房

君の代のつもりとかゝる三つ山のわさはゝ人限
長久八年宇治西大政大臣家にて合せられるに
あり

能因法師

ちゝかゆ世のこゝろ雲のなかるゝ月のすまいかなこのうこゝろ
歌ことす

赤染衛門

榊葉をてにとりもちて神の世をわかるゝ日
三条西大政大臣の屏風の絵に

花見てゝ人〻紅葉の下にあれ

中務

わのそのかゝ田へ稲もちなる井をつゝ世ゝ
かゝる人〻三人よりせ物しるゝ人のゝ
ゝ

清原元輔

松浦のうちにもまかりしのゝ所ゝ
三月十四月晦日后又亦合ふ世ゝ

後冷泉院御歌

みの濱の玉ゝ世ゝ見ゝ君の代
上東門院御屏風に十二月ゝ

[illegible]

一せと言わと行の傍しへさせ給ひ世を世を世をぼ[illegible]よい

河原院よりて言伝へ行方しらず松源池

とこへ[illegible]

恵慶法師

雑小このしの代ちうん底よりこ[illegible]松のしらせと

後三条院位吉海[illegible]てふあり

[illegible]

君代の久しかるへきたのよい神とう久すとう味つ

ふつつつよくてこ位ふきてくあり

大納言經信

すみよしの人神の久しさにまりと伴くもい

おしかくの海

詞花和歌集巻第六

別

赤染衛門

くもりなくいづれる月のかげにこそ

民部卿

和泉式部

知らるるまさしたるすがの板敷をとへよ心の屋根

陸奥のくにの守にて侍りける時

右京大夫頼通

源俊頼朝臣

藤原輔尹朝臣

藤原道綱

大納言経信大宰帥にて侍りける時

よみりあひてよめる　津守國基

むかしみし君かはりの住吉はへさゝよいふく光めまし

つねによひける女房の日向の国へくたりけるに餞

をまうけてとゝめ侍りける

あかねさす日にむかひても思ひ出よ　一条院皇后宮

都ははれぬなかめすらんと

つまなるに紫草つゝみてよめる　橘有稜

から衣草のはなへ振衣つゝみて袖は

月人のありしにやりて侍りつゝかへるなる

日本にかはりてよめる　玄範法師

みこもり雑まえしていとつらきよかすふ命たえ侍

あつてまちける人に侍るめるはある　寂照法師

心ある人のみて月に侍りよいおもはすつて井柄持侍

今見よとひなかり日本のかへりてよ

なり　僧都清胤

二月廿八日 君いとめしてあるに我心ゆきよおもうらし
大納言經信卿 太宰帥にてくだりし後
朋友ゆゑ多侍しかば 家に
太皇太后宮甲斐
くもいまつるまことなるに
橘為仲陸奥國守よりたてまつる
太皇太后宮の大盤所にわたしたまふ
わたしたまふけさ道とめてくるの用
陸奥の頭季方太宰大貳よりたてまつる
よるいくてうしかば家に
権僧正永縁
三月廿日 かの所にまいりたまふ
わたしたまふ ゆゑ多くまいりたまふ
よりてしらにしたまふ
くりたてまつる
くるまくるまの家にまいりたまふ
なりてなり

詞花和歌集巻第七

戀上

逢のうらにたちよる人もなみ

関白前太政大臣

わびぬれば身をうきものと思ひ知る

藤原實方朝臣

伊勢かたにすむとはなしに海人の炊

隆惠法師

くるしきものはいとはるるなり

堀川院の時百首の歌にあり

大藏卿匡房

おもひわびぬるかたもなしなげきつつ

平兼盛

谷川の岩ばしるたるいとはやみ

長三位の日吉の殿女房の歌合

一条院の御

秋ごとに逢つるすくるる月かげ

兼盛の手内裏の歌合よりあり

藤原伊家

我逢ひ友ちよりは花のくもしつつ

[illegible]院位にのぼりまゐらせ給ふ時の御願によりて[illegible]

[illegible]

左立[illegible]貞[illegible]能

寛和二年内裏[illegible]合[illegible]

藤原[illegible]成

命[illegible]

[illegible]中[illegible]

左京大夫頼[illegible]家[illegible]合[illegible]

大納言成通

[illegible]

[illegible]

寛念法師

[illegible]

[illegible]君[illegible]

[illegible]女[illegible]

賀茂成助

[illegible]

浄蔵法師

[illegible]

[illegible]女[illegible]

[illegible]

平兼盛

よするやとみるへも青葉になりて夜さへさしもいとゝ我かは
題しらす　よみ人しらす
手ならへてきえて木の山のわかみにしみは秋の風さ袖かな
よはの月三井寺にて聞は秋よりてもあはれまさりけるかねの
思ひとおもふことなかれはいつもいつもの月のかなしかるらん
能因法師
ねさむすゐの袖をくらへてあはれなとかもみえしかなさまさる
わたくしもあはれなしりける女とこのゝちいかゝせ
侍るを世になりて三井寺にすみしまかりけるを
おもひいてゝみやこの月とかへておもひわすれて

一とせいまたかの世をのかれ侍りけるすゑのとまさ
いかにつもりける　前大納言公任
三井寺にまかりて侍りけるを京へいてゝはかなくすまふ家
よしちらて侍りける京へいてゝかりしはいかなる稚と
見えしよりもかくつまこもりさりけるゝつゝそ
僧都覚雅
秋の夜の君をはわすれの月みてもいとゝこひしさなりけり
なかのゆふへこそ女に七月七日につかはしける
大納言道経
七夕の宿にいくよの露をかたしきていつかへてやあはんこそ人

恋の歌とてよめる

隆縁法し

あれ経ともおもひしハおろかなれやつれはてぬる人のたのまれけるかな

左衛門督家成の津の国の山庄にて旅宿恋

といふことをよめる

よひつゝもあかしかねける枕ハやかてしらぬ袖そ露のこりけるかな

冷泉院春宮と申ける時百首歌たてまつりけるに

よめる

源重之

風をいたみ岩うつ浪のおのれのみくたけて物をおもふ比かな

堀川院の時百首歌たてまつりけるによめる

修理大夫顕季

よゝ恋わたりせし山のおくるゝをわかふ人のみの

題志らす

平祐挙

むねハふし袖ハ清見か関なれや煙も浪もたゝぬ日そなき

藤原永實

いつゝまて来くしか錦木はみえらすりにゝおなしふるさと

書よたまりてあり人とも見えめりゝ女のさわほ

家に人々なかましハ伴ハいつつのゝかな

道命法師

山城の井手の寒井物なりゝ人見んの浅はかく我迷たるむ

堀川院の時殿上人にて侍らひし贈皇后宮藤原
よりなり女と云のいとてしてしらぬ人よ物ふ
こゝろて花よりてしてけるつ事か

源家時

あとの人の公ふうろいてをりてせめこゝろ
ゆき事女よりてし　大納言公實

四条のつかの父とあはせすうゑ物てやしれるけまい

中納言俊憲家の合よしあり

藤原頼經朝臣

なの花めのいろとうの色よりしあの物のうえ
なるやと

歌こゝろ

源道濟

こゝろまとあなたこゝろ井よ物思ふいとしへりそ
ゆきこゝろ女のいのたゝる事のあり人合
りよゆすとせとりうまいこゝろ事か

源雅光

なるよりこの父とたりにかゝわかくろい人はたゝ物ふこの
左京大夫顕輔の家にて言合こゝろにあり

平實重

あこゝの事花典ものあり物ふくきこゝ人のこゝろ
歌こゝろ

道命法師

けさとは君ぞしられて知るらむ物思ふ袖は露
うちはらひつつ

藤原道信朝臣

恋すてふ我が名はまだき立ちぬるかな人しれぬ物思ふ身は

公覚法師

月の前なる清の燒火の煙は我恋ひ侘びぬ物思ふ身は

大中臣能宣朝臣

山ちかくすみてのりへにつつ女のりへにつつ

藤原兼家朝臣

家の

恋ひて言はせ初めしやうりの物思ふ

関白前太政大臣

藤原親隆朝臣

風吹けばいとの煙ぞ立ちわびぬ人知れぬ物思ふ

前院四製

流れとゝ岩もせぬ谷の水の日まてとまれ人とゝ思ふ

雷初好忠

くり返しもとゝふうしもしらぬ人と思ふ

冬ゝ人言はあわんと伊勢いろ女よくしの

祝て[illegible]つゝ家内

道命法師

初[illegible]くれぬ[illegible]冬の日[illegible]ゝ[illegible]あり[illegible]

家より[illegible]合[illegible]ゝ[illegible]内

中納言俊忠

こゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

詞花和歌集巻第八

恋下

[illegible]

藤原相如

[illegible]

藤原道経

[illegible]

いつのころ
我妻こうりょうとつくりわらべ家来銀
左京大夫頭捕の家にて行合いらう

清原氏捕

藤原頭廣朝臣

つぎいかりめて我いろうまわりの者ども
女許より我妻こうりょうに朝よりこれらう

竹の系よりむらくれ
長月の晦日の朝より女許ら
ところにて立かりの家内

有原實方朝臣

[illegible]

三月八日の夕方三我の妻と我の妻ら言い
藤原保昌朝臣
よりこのいて物うへ
しまい

[illegible]
丹後國へ下る家
[illegible]

我のら田ハとせんもら物迄
物うへ下る女のりへいはいっろう

[illegible]
和泉武部

大江力丞

[illegible]
世中より井いはいめ
我妻せんとまいて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ちの秋ごとに四うりの花の朝よりつ
ゆ宋内　一文紀伊
つねとも病宅まうつ　つこ　ことしかまくや花ちるめん
女りとに四りしりうふ　ものいしまいは
はいえんあふまち　ぬ　ちうれて　ちうれて
しあ海　坂上明兼
せ　こしろ岩間のうとと　ちつ　ふ物こいたりけ
ぬ　恵慶法師
わ事の海　しあめ　ふよ　ぬ　わまぬ　さ
等恵友人　ふ事とあり

いうとちうる事ぬ　右大臣
おこよすす　ぬ　ふ　ぬ　ふ　ぬ
よ海　たりけ　ぬ　ちうち八月ちう
めぬ　義の秋とすすたりあてよ
ぬ　赤染門
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　海
ぬ　雷神好忠
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
新院位よ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ事とあり　前日二位大政大臣

この人とうかんなりて世にしられたるものを詠たるとも

あいさつす

和泉式部

なにごとも物思ふ事のあるにか我だにしらぬ人のふるやも

月のあるうちとうるわきふて世にしらるるこ

のさとをかつふるかぬいわくらにしらぬ

家内

源ゝ人出かりしとのあるに仏とかたりて月とみるる

歌さつす

しかんさつす

けるこて我ゝ人とすまとのいらこて中絶やつつき

平之敦

わ事や海のむこにおかんさいもちてうるる

弟子たちうるるのおやよりて人の國へ

かつ内りよあるるとりまかるくさくさ

つとうるいあるとりとよつ宝てうしたつうる

家巌さい

ケ月野の三つ山遠いとうるあるとあ

あるやうおこことはいまやくとなるうるにほんの母のく

よわ事の梅りてつとうるとりてしあり

和泉式部

竹の葉よあるる所ちうるるとりてつらいそせれ

初たくたるよろこのこゝろ

相模

わゝゆゝさくるりくわのつ　従人ぶん公しのらるゝ
のゝしゝゝゝ女のこゝ人よ物中ふて　きてこゝつ

清原元輔

かゝ宝ゝ
玉ゝゝすゝふ物のゝ　ゝゝゝゝかゝ　ゝゝゝゝ
久ゝくゝとせゝゝこゝよゝゝゝゝゝ

俊子内親王左近

こゝゝゝゝゝ

世をていたりし事のなごりをもて高野に行
しかるべき所のあるべきなどの
てえんを伝へんといふ事にあり

皇太后宮院出雲

我と人とかの事を友のしかるべきなどいふ
家に所合に行なりしかばこの歌を云
事とぞあり

中納言國信

逢事をいつはりなりとのたまへる返事に人々うち
くんじて詠ずるに野中の長やくすり

藤原仲實朝臣

関白前太政大臣の家にてよめる

藤原基俊

わすらるる身をばなげかじこの世にし人の命の惜しかるべき
つのくにのあしのこやにふるはしてのうら

清少納言

はるすぎこしとのうらにいでてみるあまの海人にあはぬ
なごりをなせのおとにまかせよ

人人

今はわがうらにもいでぬ我なれど事の数さ
中納言通俊

行よりなるべきにつのうら

[illegible]

中納言通俊

[illegible]

和泉式部

[illegible]

大江匡房朝臣

[illegible]

相模

[illegible]

[illegible]

詞花和歌集巻第九

雜上

所々の名所を季にしたがへて人々のよみ侍りける

尺八の調べあり　源家朝臣

春霞たなびくやまぶきの国ゆかりの人の袖にぞ匂ふ

堀川院の時百首の歌よみ侍りけるに

ふるさとの花のにほひを風にのせて春の山路を人にしるべせ

源俊頼朝臣

浦よりも沖に出でて釣する海人の袖にぞ波はかけける

同じ時百首の歌よみ侍りけるに

浪たちて松の末にかかりけり春の山路を人にしるべせ

嘉保三年の比国ぶんの公議

備前守よりの国ぶんの公議

しらなみの立ちかへりつつ春の山路を人にしるべせ

為通朝臣

平忠盛朝臣

一宴の

ひとつ井の水の花を春の人我にかへりつつそ

限りしらぬ春の山路を人にしるべせ

花山院の御製

本院のしゆすかうまとにあつらへもつて人をあまたつかはす
人をもつてかりうけうより播磨花をかりて
花をうけとる事
天台座主源仏
しゆすかうの会にはたてまつる花をなをしたてまつる事
花をもつてしつらはしめ給ふ
大蔵卿匡房
宇治殿大炊殿花をあらそはせたまふ時
てつかうの事
堀川右大臣

方にしたがつて人をしつらはしめたまふ
二条関白殿へ花をよめといはせて
あり
武部内侍
長月の末に白川のほとりに花をうつしうゑ
道行政いとしのびてまいりてみることせ
てうたまふ事あり
大納言道綱母
雑々の事のおもしろきをかりのみの花
新院位におはしましし時后宮の四月の花
しらめたまはせ給ふ
大納言師氏

春日小路の家の海のほとりにて初めて
陸地人夫頭李九郎守ようの時へ
さたしてゐ右近馬場より郭公を
かよ侍女内親王の女房二車まうてき
てまこの一行ふるまひてはいのよう
ひとりよりは女車わ
見物ゆるめ侍り小典侍和泉の浦とふへる
この歌事せよとのたまへり
見の浦とふて新風吹浪のわこと
ありけり

嘉元大百

花衛門督家成のい井の清水小路にて言
ところにあり

藤原隆季朝臣

雲井にわ月ぬきうる白玉しき布引の滝とふん
彼院位よりまち志時に所にて水茎清冊
ひとうまいしとこの

大蔵卿行宗

雑波つの芦の芦刈ぶる冊のいとの苦にそりてこそ
見ぬ

律師清慶

おりしてもてて我ら山の月ながらせの
又永寿信名ちりてくるり行ろうさい。

月てのはるかなりしかは左京大夫頼季の家
よりの会しはべりしに

藤原為忠

花にうつりすて山をこえしいつの時にかありさ
月のあくるはるかなりよ人海にて月をあはれ
はるかに月入る宿の奥つとをとをくはるか
ゆくすゑまでいしあり

大中臣能宣朝臣

月にうつる人の影のまはゆきわれ井てはらはれぬる
ちりぬくはるかせをはいてはる六条院の御

月のはるかなりしかはるとはらしてをきませはるか

小一条院御製

池水にうつる月はるかなりしかはるかはるか
左京大夫頼宗中宮亮にてはるかなりし時下臈
にて女房の中にたをり
中宮のもとにまゐりて
世中をこのはるかなりしかはるかはるか
田家月とはるかなりしかはるかはるか

秋院御製

月はるかなりしかはるかはるかはるかはるか

新院位おはしましける時月のあはれなる
よ女房ゆ宴てあそびしませける
太政大臣
すみのぼる月はそらにまかせてもかへりぬ
あはれとやとに月のりてなるかはあり
良暹法師
板ぶきわたるのぼるつゆやはらかして住へるわ
内大臣
くまもなき三ゐの森の時雨ゆ松のすゑ〻に月
山家の月とはあり

源道濟
さよ家て三ゐの〻山墨ゆ月よおもしまわ
新院殿上にて海辺月とふ事ありける
平忠盛朝臣
人をわれはこゝろてぬるゝよ月とゆ
影ゆ
橘為義朝臣
春まつ三ゐの〻出てゆ月とゆあつる
堀川院四時中文四方よ四ゐて女房よ
物中ゆ月の山ゐくれ三ゐのり
ゆゆしてゆ月いるよかなりす生ゆ

わくらはたりし心をいかにせんとあり

いつたまはまつよりいでる月まちとりいるやまのせんとん

大納言公實

あはれとは

花山院内大臣

公こしの月をまちえてこの月のわくらはたりしかとも

月のわくらはたりし秋の夜大納言公任卿うて

所しり家内とすり事ならてとうく侍

わくらはたりしまちをうけてとりあはせよりまいて

のつ家内

中務つ具平親王

うめくくとりあはせりの月よりいこのくとまつふいて家

屏風のもとにつきをうけて月をとりあつめ

しりあはしとり

大江為言

かよこの白雲をなかめて月をとりあつ

家よ三所合しあはせるふしあり

左京大夫頼輔

しすすきのこる秋の雲をなかめて清この岡のすあの月のを

山城守よりて月をとりあつけ所ならしの月のあつ

つとりあはせうてきりとりあつ人をいてあり

ふしあはせるまいしあり

藤原輔尹朝臣

やまぢの月のいづる時のいとすさまじくて世月の家
久しくとゝせのへへ月のあの所よりいと
はつかうろ
中原長國
月は秋しるべきものとなれど我が身すゝ人なきぞ
山ざとにかりそめ宗延法師あ
いてすゝる物らいとうるはしき明の月
みゝ山にわかのこりうろぶしてあり
堀賢法師
みゝてあり山ぶしどん田あるら若くこゝ三の山の月
京極前大政大臣家歌合よあば
大蔵卿通房
舍坊の閑の松原下りまして月のいと面のせうろう
はつかうわかつるまうすうて来てりすゝ行を
おのかつわゆゆしくしわゝしまのまよろふ
月のいとわゝ行きまいあば
師前内大臣
つまゝゝまあまゝうやとおのしまゝ月すうこそ昔遠
歌ゝゝす
海くゝすゆゆやゝ海の人ゝ海のうう月の出ゆゆ人
ゆゆよゝしゝしゝあゝこのゝやすゝあゝ
三松上

こゝろ人々捨いしあゆ

和泉式部

おもひかねおもひのほかなるものとこゝろ
こゝろのうちにおもひ入五月雨の
朔日あまてらしてうゝくまの
なかしうゝ捨ゝ　　ゆきこゝろ
しあゆ

あやめぐさしらんものゆゑ人こゝ
保昌ようすまてゝ
こゝろ捨いしあゆ

藤原威房朔日
こゝろ捨ゝ

人こゝすものちゝはゝこゝはゝ
藤原威房ゝしゝ
ゝゝ宋ゝ日ゝよ
ゝゝ母のゝゝ

ゝゝ宋ゝ

詠人こゝゝ

ゝゝゝゝゝゝ宋ゝ
ゝゝ

待賢門院堀川

ゝゝ人こゝゝゝ月
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

清水紳云

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原隆時朝臣物いひわらふ女とまし宋
もいま才忠法師しいうと初だりしすまはをを
後はおく隆重よあひしのとまりてのの女よいつ。

藤原忠法

いつまはおの流の水のとのこの月のうはまの人
あいさ〳〵す

相模

すこしはなはなはなるとしく深さはしけの人宋る
物おもひいろ〳〵ものあり

大納言道經母

陸奥のくにおつるうるこ物とおもひて宋

田植事はやうはしはすはうまはいとすす
みあわてたる明の月のくまるくてはうう
かよんはいさくはすくまうはんてら

赤染衛門

神宮月はうはしたくるとと我だりめんやこるん
五つはて物ういうはしあう

出羽弁

さはうはくるりうはむ
さはんいうおとこのたりうるかわとうかり
しうてとての宋まはいあは

和泉式部

おもひつゝ人のうらみもなかるらんこゝにしらるゝ
つきのいりかな

大貳三位

今は世をこゝにしらるゝ物すきの思ひいりやと人はつ
ゝまん

左大弁俊雅母

夕霧よ雲の衣をたれこめて春の一日を
長え八年宇治の太政大臣の家にて合せられ
ける時住吉よりふてく

二つのみちなれはいかゝ

武部大輔資業

すゝきうれはよい神のいはれ
物へ出るうら道よ人をいはんとはいはれ
みの井神やあるふとこゝ世をうしはいまて
あれ

周防内侍

いてかゝ神と情人をつゝまんとは命井よと
冷泉院へ人をやしてよりせをはしてあり

花山院御製

世の中にあるかひなしの井の水の人をしれとてよりつゝ

冷泉院の御製

手ぬぐひのようにぬれてさくらばなをるとしもなくて梅

おもしろしと思ひわたる山の端にくらぶるものとなけれども

津國よこやへとふる雨よこやり井て恋人納言在

許へつかはす家の

能因法師

白雲の山のまにまに我のこえとおもふのすみ

海二条関白内大臣道

家のうちよりはるかに出はらてあをとはらてあをとはらて出はらて

女房の中よりとはせはるかに

源仲正

おもひやる家の門にこもれてもはるかにはるかにはるかにはるかに

中ゆきて行方もしらぬ人なれは五月

又日ぬしてあり　平時忠

君へ・すみなれぬ山のあなたの家ゆへたゝ和とそふへけま

長恨歌　源道濟

おもしろの事ども聖へ申しられて金吾殿原より松風を吹
陸奥國へ仕て下のほり給ふ時
月の松をりしたてまつる

橋乃中納言

かつらへまいりつるわしけく世よ之川にて給ふ松に雪ふつ家よりか田梅
帰りてゆふおしかすの冬ゆりつるよ
所つ家給ふ

龍京大夫頭輔

孤つ藤の末葉のもとさいも春のはしのもとゆ
時雨の内大臣わ時こいるれ見て

やまいよたりてよめる

高内侍

ふるかつらやのうしせよめる孤こ返くちるわのすれ

堀川院の時百首奇りてまいりつるふよ
めり

大納言師光

月のうさいるわるくと田しくり末の事たるき

天龍寺住房

雲のたてくるまといかりの花のいるすまいわ
見えます

大納言伊通

今いくもむしとつ孤よ返ふるゆわ
田生めて

小野宮右大臣のもとにふゆのはてに黄ぬ事をよ
　　清原元輔
ていてあり
たてなしとてもとのぬしこそ
ぬしなくす
　　賀茂政平
しきのはのつゆ
　　藤原季通朝臣
新院のおはせしてをりてまいりとる
よしあり
　　神祇伯顕仲
いらしてしらまくのしらはしてすぎ
　　藤原
述懐
神祇伯顕仲
　　左京大夫顕輔
雜波江のかりにやどりし月なれど
　　我ものとのみ

詞花和歌集巻第十

雜下

源俊頼朝臣

ちはやふるすがのあらのにあまのこがれてあるこいもあるかな

藤原重頼朝臣

わたくやしたすこのせなかのはるくまをもとつ生成家り

女郎花のはくふ若葉をとりしかてしあり

藤原重頼朝臣

たのめつつこしのうすゆきわかれにぬらしし

袖信て殿上ありて行ゝ露ゝ卑しく事

しかあり

藤原重頼朝臣

しらくもの雲井はるかに見わたせば

我こそたれん

秋院の条殿おもかけ

きゝ〻時月わくゝ行ゝ

和歌所よりてはまりて月前言志と云事

とゝまれとゝ行ゝ

ふしあり

右近中将教長

三日月はまくらのかぎりなれば

世よりくらたなかぬん

さくゝ花のらしかしてしあり

藤原實方朝臣

しらたまのようにあれとかつるのたまをまきてとゝ

世のるのいくゝ行ゝ

ゝ行ゝ

わらはやまのしのぶむしの秋の野とすさまじうあれはてにけり

播磨法師

秋の野のすさまじうあれはてにけりくれなゐのはなのかぜのよりこそ

源親元

花すゝきまねくかのうへのしらつゆはつらまでたまるなりけり

三条中宮

しらつゆのたまのうてなにかけてこそ世中のうきをはらはめ

藤原為家

きぬぎぬのうきをはらはんしらつゆ

一花山院御製

かつてくれなゐ今はたゝんかはこそくやしけれ

あはれなるかのしもはてしてあり

和泉式部

久しきものとなるのこゝろかはらぬ

大納言忠教卿

とゞまりてあり

藤原教良母

寓のやどりのうへのあはれ

人なるかこゝろのこゝろ

寄橋書記

三月ばかり昔のことをつまびらかにしたゝめ

夏の秋ふかき三井寺にて涼しさをよめる

いとくらき夕月夜かな

神祇伯顕仲女

ながめつる月まつ程のうたゝねに袖にこぼるゝ春の雨かな

良暹法師

おもひつるまきのとをとをしてこそ人ふかくすむ

大江挙周朝臣

今はとてもとをつゝしてをりふ

夕月夜かな

赤染衛門

かくしてこそ命のあるうちにこそ人事にもあるさ

やまいもたゝるよりはいとまなく三井ちかくて京の房ふるの色をとゝのへて春のいとゝ梅を

花にしたがひてこゝろ穏にこそ

こゝにせまいとあり

大僧正行尊

この世をば我はあきぬと思ひしら梅もちるべき人事にのがれ

世のうきをいとはぬ身にもあらぬ月をもうらやまぬ人にあらせて春をまちいとあり

丸人こゝろ

[illegible]
歌ことのしるし物語[illegible]
歌ことのしるし

我里の[illegible]

婦人[illegible]師

大つら言

わすれよ[illegible]

大原よすこうめ[illegible]

良暹法師

[illegible]原やまもすこ竜[illegible]

賢智法師

歌ことのしるし

源川北の[illegible]

雲集撰集

家集

太政大臣

周防内侍

大蔵卿通房

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月を捨ておくべきよすがなくて捨てぬべかりし
藤原實宗がいらせし家に行かむ時大殿有
のこりなくせめらるまじき注房よ
て行かまほしう遠ざかりぬべきいとつ
つ家内　太皇太后宮北殿
きくの花のうつろひまさりしを心ぐ
下臈ここだけまして堀川殿のもとに行かむ
人々浮へおぼしくてしたい
つ家内　大中臣能宣朝臣
家にてつとめてもとめ人をもとめ

白川院位おはしまし時院殿大夫頭季
よつ家にまゐりて行かむと宣旨のを
くるもりけまし所の冬ぞわびしかりし
つ家内　いまち園基
雲の上の月をやまちくまもなくこそ物の行かむ
ぬる　院殿大夫頭季
小さき事をおけまして猶ものいかりうん
村院位おはしまし時上のおぼしめ
さて述懐のうちまゐらせ場合ぬ白川院
の四事とをすべき時たくおはしまし行かむ

大納言成通

堀川院の時百つの中にあり

大蔵卿匡房

ゆきかへりてこゝろ
ゝせの花やちりてこゝろ
蝶の夢にぞ入りける

新院位おはしまし、時中宮亮重家の女房
くるまにしたがひて上東門
院のこゝろぶかくて
とゝかゝるふしみ中宮の
もせをつゝみとゝなりてまつ

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

新院御製

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

源義國妻

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

岡白東大政大臣

おもしの松のすがたとあつまりて雲
井院住ありしまり、河海上遠ちかと云事
とうまもなくもしろくしあるに
藤原ゆきすえ方雲井よりふかくふる浪
海浜泉院四時大清書主奏方出屏風
紅中國なるやまのまつの人花つくりかか
なりなりあるふしあり内
藤原家經朝臣
らむしまてたるやまよりむ物ゆくるる世をうつるまのも
今上大嘗會悠紀方出屏風よわふかなん
國いなるやまのまつ山田よりいなかしくるりけりこまを
人をうりくるかすしりあり形にあり
左京大夫顕輔
そこなるの山田よりめくり、新しきとてわさま新しき世の花と新
圓教院四時堀川院よりくしに幸せをを
法ふくるふあり
前祢好忠
ふるさとよりてなつかしき君代はいとせめてなつかしき川水
わろ田の湯よりくりあるふしあり
宇治平太政大臣
いかまくうすきとてわたるなみよりあらしそふ

熊野へまゐりてゐらるべき由申入れ侍てあ
る
道命法師
新しくあり月ばかり所の様のいとおもしろかわ
ざものくるこしてくりそふふさこれみ祢
してあるる
藤原家経朝臣
かさこれのうへにてゐる所にはゆりの物をしきゐる
藤原実任朝臣
よはりて世の後手月にしてこの國の守に
なりてくり侍てまゐり井三云いまいと見てよ
めれ
藤原隆家朝臣

しきりにものを井ものいふ祢とゐ祢ゐ新て手ゐしへ
時に西内大臣くるまへりてゐるふさまして川
庭をいまゐる回りこゐる
大江匡言
おもしろきの井ものをいまてくるまにいてゐる祢ゐ
三条太政大臣月ばかりゐる後月とそてあり
藤大納言公任
いかにしてふる波よりゐる祢よ月
しまあるとくまてにてゐるよこゐる祢よ月
わくるとゐる祢ゐ人よ月ゐ
ゐいつのゐゐ

[illegible]

わすれぬ右大臣

堀川右大臣

[illegible]

藤原相如

[illegible]

堀川殿中宮[illegible]

てゝの朝よりもまゝ[illegible]

[illegible]

園韓院内侍

一条摂政[illegible]

[illegible]

[illegible]

よとりのぼりて
ふれば三月の雨三日のまを
ぬる
七夕のしらのふたもしんにて井の我をぬる
しすあふとくまてはぬ井のぼりてしあり

神祇伯顕仲

わかの浦や君よ井すへふまを深の衣の袖とはのあすか
大江匡房
あり

赤染衛門

きもはまをりめ花で雨にかりの衣かのつ袖きりた

右兵衛督公行めよとくまて行ろ法女房ふ
つ雨て雨さすりと行ろ四ぬ井にうまをせら
まを雨か

新院四製

うつ井の入ぬ井の雨ゆくこ雨ところ知人袖にうへて
海冷泉院四時雨へて行ろよ四門くまお
つ中ろ雨ろ袖いしあり

藤原有信朝臣

海のこ初よろ世中にこ井ぬろ井ぬ井
ちとこふとくまてしあり

読人しらず

[illegible]

人皆四十九日の通夜文よりはつ家内

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わくらゝ式ゝるさはりゝ世中とすてゝゝゝゝる
即方成佛ゝゝゝとゝゝゝ

九人三位

あの世界の中にて佛よ菩提の心をおこしたゝへりゝゝ
舎利講の日井てよ願成佛道のつゝけへゝよ
中世ゝゝゝゝ